

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和4年度学校評価 結果・学校関係者評価

| 達成度（評価） | |
|---------|-------------|
| A | 十分達成できている |
| B | おおむね達成できている |
| C | やや不十分である |
| D | 不十分である |

| | |
|------------------|--|
| 学校名 | 唐津市立巻木小学校 |
| 1 前年度 評価結果の概要 | 重点目標に対する評価と次年度へ向け ・教科横断型カリキュラムとして作成した各科関連的な単元配列表を活用し、効果的な教育課程を実施することができた。指導と評価の一体化を促す手立てを今後構築していく。 ・地域人材の豊かな知識や経験を生かした支援により体験からの学びを充実させることができた。児童の課題意識に応じた体験学習の開発や郷土の課題解決のために自分や地域住民でできる持続可能な取組について充実させていく。 ・研究発表を行う年度であったがメリハリをつけて業務を行うことができた。職員が心身共に健康に働くことができるように、業務改善と時間外勤務時間の縮減の視点をもち、組織力を生かした改善策を探っていく。 |
| 2 学校教育目標 | ◇◇◇保護者や地域と共に創る「一人一人の笑顔が輝く」巻木小◇◇◇ 自ら気づき、考えて、動く子どもの育成 |
| 3 本年度の重点目標 | ① 主体性の深化と発展を目指したカリキュラムマネジメントの推進 ② 地域人材の積極的な活用と、体験活動・表現活動の充実 ③ 組織力を生かした業務の改善と時間外勤務時間の縮減 |

| 4 重点取組内容・成果指標 | 5 最終評価 |
|---------------|--------|
|---------------|--------|

| (1)共通評価項目 | | | | 最終評価 | | 主な担当者 | |
|--------------------|--|--|---|-------------|---|-------|---|
| 重点取組 | | | 最終評価 | | 学校関係者評価 | | |
| 評価項目 | 取組内容 | 成果指標 (数値目標) | 具体的取組 | 達成度 (評価) | 実施結果 | | 評価 |
| ●学力の向上 | ●全職員による共通理解と共通実践 | ●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成する。 【マイプランにおける教師の達成率80%以上】 | ・教職員間で共通実践を共通理解するとともに、校内研修等により取組の促進を図る。 ・学期に数回、唐津の学びスタイルチェックシートで進捗を自己評価する。 | A | ・今年度途中に改定された「唐津の学びスタイル」チェックシートの活用を共通理解するとともに、2・3学期に自己評価を実施。自己評価の職員平均は2.9(4点満点) | A | ・校内研究等に取り組んでいる |
| | ○主体的・対話的で深い学びの継続と展開 | ○学校は、児童が主体的に考え、グループやクラスで話し合うことで、自分の考えを広げたり深めたりする授業に取り組む。 【自分の考えを広げたり深めたりする児童85%以上(児童アンケート)】 | ・主体的に学べるような単元づくりや課題設定を行う。児童自身が学びをメタ認知できるような振り返りの場を設定し、唐津の学びスタイルに沿った授業展開ができるようにする。 | B | ・唐津の学びスタイルに沿いつつ巻木小独自の授業スタイルの確立と展開に取り組んだ。学習の基盤となる能力系統表の加除修正を行った。【グループワーク・クラスワークで自分の考えを広げたり深めたりしているに肯定的な回答をした児童83%】 | B | ・校内では児童が主体的にできる工夫がなされているが、家庭ではなかなかできていない。 |
| ●心の教育 | ●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動 | ○「あいさつ十一言」「ほかほか言葉」を推進し、児童の豊かな心づくりに取り組む。【「あいさつ十一言」「ほかほか言葉」の言葉遣いをしている児童85%以上(児童アンケート)】 | ・児童の思いを高め、学校行事や集会活動を主体的に企画、運営する。 ・あいさつ十ひと言、ほかほか言葉の推進をする。 | A | ・平和集会、地域ありがとう集会、6年生ありがとう集会は委員会や担当学年が計画実施し、主体的・実践的な態度を育てることができた。【あいさつ十ひと言、ほかほか言葉を使っている児童(児童アンケート)88%】 | A | ・特別活動主任 |
| | ●いじめの早期発見、早期対応体制の充実 | ○道徳授業やアンケート等を効果的に活用し、いじめの早期発見・早期対応、いじめを生まない風土や集団づくりに取り組む。 【保護者アンケート85%以上】 | ・いじめの早期発見のため1回のおいじめアンケートを実施する。 ・いじめを生まない集団作りのため、道徳や学級活動を中心とした授業の充実を図る。 | A | ・児童対象のなかよしアンケートを毎月実施しアンケート記述を職員で確認し、早期発見・早期対応につなげた。いじめ報告事例は18件であった。いじめの見逃しゼロを心がけた。【保護者アンケートで肯定的な回答92%】 | A | ・早期発見、早期対応がなされている。 教頭 |
| ●健康・体づくり | ○「望ましい生活習慣の形成」 ○「安全に関する資質・能力の育成」 | ○学校は「早寝・早起き・朝ご飯」を呼びかけたり、生活を振り返る場を設定することで、よりよい生活習慣づくりに取り組む。【保護者アンケート85%以上】 | ・「早寝・早起き・朝ご飯」の徹底を図るために、元気チェックによる振り返りをする。 ・交通安全教室や避難訓練を通して、「自分の命は自分で守る」という危機管理意識の向上を図る。 | A | ・毎週水曜日の朝の時間に元気チェックを行うことで、児童が自分の生活を振り返り、改善につなげる意識を高めることができた。【保護者アンケートで肯定的な回答88%】 ・交通安全教室を実施し、交通ルールの確認し、歩行・自転車乗り方指導を実施した【児童の交通事故は0であった。】 | A | 教頭 |
| | ○日常的に健康・体力づくりに取り組む力の育成 | ○外遊びや、体育学習、環境を工夫することで、自ら運動しようとする態度づくりに取り組む。【外遊びや体育の学習で進んで運動している児童85%以上(児童アンケート)】 | ・体育授業で学習カードを活用したり、運動検定カード(水泳・なわとび・持久走)を作成し、体力づくりに向けた活用促進を図る。 | A | ・水泳、なわとび、持久走の際に学習カードを活用し、体力作りを行った。駅伝大会の時期には自主的に運動場を走る児童の姿が見られた。【外遊びを進んでしている児童(児童アンケート)88%】 | A | ・なわとび、持久走等で楽しく参加できる工夫がされている。 体育主任 |
| ●業務改善・教職員の働き方改革の推進 | ●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減 | ●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 【県費職員の時間外勤務時間が、月平均で30時間を下回る】 | ・教材の共有や校務の情報化を図る。 ・チームワークを活かし連携・協働した対応を行う。報告、連絡、相談を心がけ、感謝と尊敬の気持ちで行動する。 | B | ・サーバのデータを活用して、授業に必要なワークシートを共有したり、過去の校務分掌データを活用して校務の情報化・共有化を図った。 【時間外勤務時間30時間を上回っている。35時間】 | B | ・時間外勤務を減らす努力を。 教頭 |

| (2)本年度重点的に取り組む独自評価項目 | | | | 最終評価 | | 主な担当者 | |
|-----------------------------|--|--|--|-------------|--|-------|-------------------------|
| 重点取組 | | | 最終評価 | | 学校関係者評価 | | |
| 評価項目 | 重点取組内容 | 成果指標 (数値目標) | 具体的取組 | 達成度 (評価) | 実施結果 | | 評価 |
| ○主体性の深化と発展を目指したカリキュラムマネジメント | ○「学びづくり部」「心づくり部」「体づくり部」の3部連携を軸とした教育課程の見直しと改善 | ○上学年部会部会、下学年部会を組織し研究と実践を進めて行く。 ○校内研究全体会を年間10回以上開催する。 【全体研究会の開催10回以上】 | ・校内推進委員会、全体研究会、各部会をとおして、カリキュラムマネジメントを推進する。 | A | ・上学年部会・下学年部会を組織し、指導案検討会を実施し、授業研究と実践を重ねた。行事ごとに反省を記録・共有し、次年度構想につなげた。 【校内全体研究会開催13回実施】 | A | 教務主任 |
| ◎志を高める教育 | ◎地域と連携を図りながら郷土を誇りに思う児童の健全育成 | ◎地域の人・もの・ことを活用した体験型学習 全学年年間3回以上 【各学年の体験活動実施3回以上】 | ・厳木町教育フェスタを活用した体験活動の場を設定する。 ・地域の方と学んだことを発信するとともに、学ぶよさを実感し、感謝の気持ちを伝える場として「地域ありがとう集会」を実施する。 | A | ・厳木町教育フェスタで地域の方に指導指導いただき体験活動を実施することができた。地域ありがとう集会を開催し、お世話になった方を招いて感謝の気持ちを伝えることができた。【各学年の体験活動を3回以上実施できた。】 | A | ・ありがとう集会等が行われている。 教頭 |

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

| | |
|----------------|--|
| 5 総合評価・次年度への展望 | ・各科関連的な視点で単元づくり・授業づくり・環境づくりを行うことで、効果的な教育課程を実施することにつながっている。今後は、指導と評価の一体化を促す手立てを構築していくことが課題である。 ・地域人材の豊かな知識や経験を生かした支援により、体験からの学びを充実させることができていく。児童の課題意識に応じた体験学習や郷土の課題解決のために自分や地域住民でできる持続可能な取組などを充実させていく。取り組んだことを学校統合関連行事での発表にもつなげていきたい。 ・教職員の半数以上が入れ替わったが、各職員が時間外勤務時間縮減の意識をもち、メリハリをつけて業務を行うことができた。職員が心身共に健康に働くことができるように、組織力を生かした改善策を今後も探っていく。 |
|----------------|--|